

鹿児島医セン

連携室だより

2008.12 No.33

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）

がん性疼痛看護認定看護師として

今年、がん性疼痛看護認定看護師となりました。がん性疼痛看護認定看護師は、2008年11月現在、全国に323名、鹿児島県は4名がそれぞれの施設で活動しています。

がん性疼痛看護認定看護師の役割は、がん性疼痛を有する患者の疼痛マネジメントや全人的なケアの実践、および他の看護師の指導・相談を行うことです。具体的には、

1. がん性疼痛看護に関する最新の知識を持ち、がん性疼痛を有する患者に対して総合的な判断をもとに個別的なケアを計画し実践する
2. がん性疼痛に用いる薬剤と薬理作用について理解し、それらを適切に使用し、効果を評価する
3. がん性疼痛を有する患者や家族が、生活の質をより高めることのできる効果的な方法を、患者や家族と共に計画し援助する
4. がん性疼痛を有する患者の看護について、他の看護師に実践的モデルを示すと同時に、実践に関する指導を行い、相談に対応する
5. 医療チームの中で他職種と協力しながら、がん性疼痛の緩和を実践する
6. がん性疼痛を有する患者の人権を擁護するために、適切な倫理的判断を行う

の6項目です。

私は、現在西4階病棟に所属し、がん性疼痛看護認定看護師としての活動を行っています。病棟では、がん性疼痛を有する患者さんと直接関わりを持ち、訴えに耳を傾け、痛む部位を目で確かめてアセスメントし、個別的なケアの提供に取り組んでいます。又、がん性疼痛緩和について他の病棟の看護師からの相談に応じ、ともに問題解決を図るようにしています。

また、緩和ケアチームの一員としての活動も行っています。当院は、2007年4月より施行されたがん対策基本法に基づき地域がん診療連携拠点病院として指定を受けました。拠点病院としての条件の一つとして、がん患者さんや御家族に良質な緩和ケアを提供するため緩和ケアチームが設置されています。緩和ケアチームは、医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、(2008年10月からは臨床心理士も参加)などの多職種で構成されており、それぞれの専門性を活かしてチーム一丸となって、患者さんや御家族の問題に取り組んでいます。

がん患者の3分の2は痛みを体験すると言われており、がん



患者さんにとって痛みは大きな問題となります。痛みは、身体的な苦痛をもたらすことはもちろんのこと、精神的、社会的にも影響し、がん患者さんのQOLを著しく低下させます。日々がん患者さんの痛みに関わっているスタッフの皆さんと一緒に協力して、患者さんや御家族のQOLの向上をめざし、適切なマネジメント方法を用いて、がん患者さんや御家族の抱えている苦痛を緩和できるよう活動していくことが私の課題と考えています。

関わった患者さんから、「おかげさまで楽になりました」と言われた時は、とてもうれしく思います。しかし、なかなか軽減しない難治性の痛みもあります。今後もスタッフの皆さんと協力して、患者さんの疼痛緩和に取り組んでいきたいと思っています。がん性疼痛看護についてお悩みのことがございましたら、お気軽にご相談下さい。

(がん性疼痛看護認定看護師 水流尚子)

NST 活動報告

さあ始めましょうか、この患者さんの状態は？ブリアルブミンはどれ位？輸液量は？食事量は？排便コントロールはされていますか？と矢継ぎ早に宮下先生の質問が始まり、週2回のNSTチームによるカンファレンス・回診がおこなわれてゆきます。

当院のNSTも平成17年度に発足し、丸3年が経過しました。介入する患者様は栄養管理計画書を用いて全入院患者様の栄養スクリーニングと栄養評価を行っており、そこで医師の介入依頼、又、必要と認めた時は個別依頼がされてくる仕組みになっており毎年増加傾向にあり、介入効果を上げつつあります。NST構成メンバーは医師、薬剤師、看護師、リハビリスタッフ、臨床検査技師、管理栄養士、事務で構成されチーム医療をおこなっています。毎回スタッフ8名前後、約1時間、内容は①栄養マネジメント ②週2回のカンファレンスと回診、③NST委員会開催、④院内外勉強会、⑤学会発表等を基本としています。

NST介入患者数を18年度、19年度と比較してみますと新規患者は38名から57名、継続患者148名から296名と新規は1.5倍、継続は約2倍と介入数は確実に増加傾向にあり20年度は一段と依頼が多くなっているのが現状です。NST活動が浸透してきているのを感じております。食事を食べていますかとベットサイドで声をかけ、目に見えてよくなってゆく患者様ともう少し早く介入できたらよかったのになと思う方もいらっしゃると思います。このように、他職種とチームを組んでやることで各専門性が生かされ、患者様に最良の医療提供がおこなわれてゆくのを経験し、栄養管理の大切さを実感しております。

ただ、問題点もあり依頼医師、介入依頼病棟が偏ってきている。依頼を早くしてほしい。看護師の参加と意見をもっと提供してほしいなど又、今後更に発展させて地域連携がうまくゆくことで、入院中だけでなく退院後も栄養改善をめざすことができると考えています。



それから、当院栄養管理室は基本理念を『患者様に適切な栄養管理を行い、生活習慣病等の改善のための治療食を提供』『患者様の立場に立ったわかりやすい栄養相談』の2つをあげ、患者サービスの向上に努めているところです。特徴として①全員、月1回の松華堂弁当 ②食欲低下や化学療法中の患者様への個人対応食 ③お産後のお祝い膳 ④ティーパーティー、クリスマスコンサートなどのパーティ料理提供 ⑤糖尿病食パイキングを実施し、患者様へとても喜んでいただいています。以上のように栄養管理室の特色を生かしながら患者様を中心に他職種と協力してより治療効果の上がる栄養管理を安全に実践していけるよう私達は研鑽、努力を積んでいきたいと考えております。

(栄養管理室長 木之下道子)

ひとくち 診療メモ

「細胞診」

当院に臨床病理科が開設されて、8ヶ月が過ぎました。医療センターの診療の質を高めるためにスタッフ一丸となって、日々頑張っています。ところで、病理組織検査と細胞診断検査(細胞診)の違いがわかりますか？

病理組織検査では生検材料と手術材料とがあり、組織塊を対象としています。一方、細胞診の検体には、婦人科の頸管スミア、尿、喀痰、体腔液、髄液、穿刺吸引材料、捺印(スタンプ)標本などがあり、対象は組織塊ではなくスライドガラスに塗抹された細胞個々となります。細胞診の長所として検体採取時の苦痛がない、何度でも再検査できるという利点があります(もちろん欠点もあります)。一般的にパパニコロウ染色という染色法で細胞を染めます。標本が作製されると鏡検します。十分に訓練を積んだ細胞検査士がスクリーニングを行い、陰性症例の場合はそのまま報告します。(しかし陰性例の10%を精度向上の為、細胞診専門医によるダブルチェックを受けねばなりません。)問題のありそうな陰性例、疑陽性例、陽性例が考えられる症例は、細胞診専門医が最終診断をします。細胞診は腫瘍の良悪性の鑑別はもとより、炎症、反応性病変の診断にも役に立つと思われま。

現在は、外部検査センターに委託していますが、来年度からの院内実施を予定しています。

(文責：臨床病理科医長 野元 三治、検査科副技師長 永田 栄二)

新new任 紹face介

小児科レジデント



はぜき だいすけ
櫛木 大祐

10月に鹿児島大学病院から鹿児島医療センターへ移動いたしました。県内の循環器疾患児にとって中心的役割を担う病院であり、難しさを感じると同時に、大変充実した毎日を送っています。また先生方をはじめ、スタッフの皆さんから優しく指導され、楽しい毎日でもあります。今後ともご指導のほどをどうぞよろしくお願いいたします。

麻酔科レジデント



あおき りな
青木 利奈

10月より医療センターに勤務させていただきますことになりました。こちらには平成14年にもお世話になっていましたので2度目ですが、手術室はもちろんのこと、病院全体が新しくなっており、新鮮な気持ちです。

6年ぶりの心臓血管麻酔に戸惑うことも多いですが、周りの先生方やスタッフの方々にご指導頂きながら何とか頑張っています。1年間の休職明けで、何かとご迷惑をおかけすることも多いですが、よろしくお願いいたします。



登録医医療機関紹介のコーナーを始めました

掲載希望の医療機関はご連絡下さい。

第57回 おはら祭に参加して

看護学校教員 牧羽ひとみ

平成20年11月2・3日に開催された、第57回おはら祭りに2年生を中心とした学生147名、教員3名が参加しました。

おはら祭は鹿児島市制施行60周年の記念として、昭和24年、戦後の街興しに燃える市民の中で生まれたお祭りだといわれています。今は、毎年2万人以上が総踊りに参加する南九州で最大のお祭りです。この伝統あるお祭りに、学生自治会の活動の一環と病院・看護学校の広報を目的として、毎年参加させていただいています。

学生は夏休み明けから、授業・実習の合間の時間、放課後を使って、実行委員会を中心におはら祭りの準備をすすめていきました。また、参加する学生全員で、「おはら節」・「鹿児島ハンヤ節」・「渋谷音頭」を当日華麗に踊れるように練習をおこなっていきました。

11月3日の第1部総踊りに参加し、みなと大

通り公園前から踊りはじめ、三越の手前まで躍動感あふれる踊りを披露しました。

私にとって2回目のおはら祭りでした。以前より壮大、かつ華やかなお祭りになっており、この日は例年になく寒い日ではありましたが、沿道の観客から大きな拍手をいただき、心がとても温くなりました。学生も観客の拍手によって励まされ、寒い中でも元気に踊りました。

総踊り前に、地元テレビ局の生中継に映り、数人の学生がインタビューを受けました。学生は元気にインタビューに答えており、病院と看護学校の広報になったと思います。

今回の体験を通して、鹿児島の文化に触れることができ、また、学生にとって今後の学生生活の活力になると思います。

来年は今の1年生が中心となって、おはら祭りに華を添えたいと思います。



お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号
 (代)TEL 099 (223) 1151 FAX 099 (226) 9246
<http://www.kagomc.jp>
 脳卒中ホットライン ▶▶ 090-3327-5765

(地域医療連携室) 濱田、大渡、平田、中島、田添、吉留、善福
 直通電話 ▶▶ 099-223-4425
 フリーダイヤル専用FAX ▶▶ 0120-334-476
 ※休日・時間外は当直者で対応します。

